

CHEFS-D'ŒUVRE DU MUSÉE DE GRENOBLE



ポール・ゴーガン（マドレーヌ・ベルナルの肖像）1888年

グルノーブル美術館展

アングルからマチスまで

1993 4.23(金) - 5.30(日)

午前9時 - 午後5時（入館は4時30分まで）初日は午前10時開展
毎週金曜日は午後7時まで（入館は6時30分まで）毎週月曜日休館（但し、5月3日（月）開館、6日（木）休館）

入場料 一般900円 高大生600円 小中生300円
（前売り・団体〈20名様以上〉は2割引）

高松市美術館

高松市紺屋町10-4
Phone (0878) 23-1711

主催 高松市美術館・読売新聞大阪本社・西日本放送・美術館連絡協議会

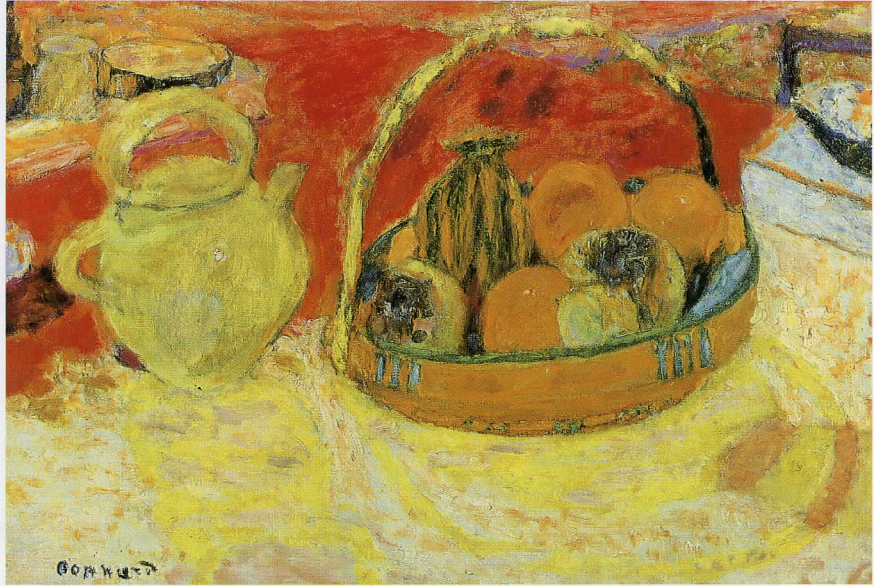
後援 外務省・文化庁・フランス大使館 特別協賛 住友海上 協賛 花王 協力 日本航空

CHEFS-D'ŒUVRE DU MUSÉE DE GRENOBLE

フランス南東部に位置するグルノーブルは、風光明媚な観光地としてよく知られ、1968年には冬期オリンピック大会も開催されました。そしてグルノーブル美術館は、ルネサンスから現代に至るまでの各時代の重要な作品を多数収蔵するフランス屈指の美術館として知られています。

1796年の開館以来、ダヴィッド、アングル、ドラクロワ、ミレー、コロ、モネなどの名作を収蔵してきましたが、20世紀に入ってからは、マチス、ヴラマンク、ルオーなどフォーヴィスムの画家の作品をコレクションに加え、近代美術部門はより一層充実しました。そして現在では、パリの国立近代美術館に次ぐフランス第2の規模を誇っております。

この展覧会では、グルノーブル美術館の中核をなす近代美術を中心に油彩画・素描・彫刻など名作176点を日本で初めて公開するものです。



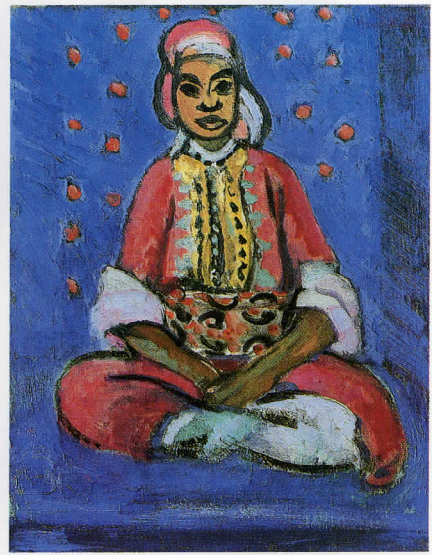
ピエール・ボナール《黄と赤の静物》1931年



マルク・シャガール《夏の夜の夢》1939年



オーギュスト・ルノーワール《花のついた帽子をかぶる女性》1913年



アンリ・マチス《モロッコの少女》1913年



モーリス・コトリロ《パリの郊外》1925年

●講演会

「フランス近代絵画の流れ

—グルノーブル美術館所蔵品を中心として—

島田紀夫(実践女子大学教授)

5月9日(日)午後1時30分より

高松市美術館一階講堂にて

入場料 無料 定員 先着200名様

●次回の展覧会

竹久夢二展

1993年6月4日(金)~7月4日(日)